

平成 26 年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会  
第 2 回 人工島環境整備専門部会  
〈第 1 回専門部会における意見等とその対応について〉

意見等	対応
<p>●野鳥園の立地状況について</p> <p>野鳥園から人工海浜は、連続した 5 ha に及ぶ公園というイメージで取り組んだ方がよいのではないか。(中根委員)</p>	<p>野鳥園、人工海浜と分けて表記しているが、事務局としても、一体として考えている。</p>
<p>●植栽計画について</p> <p>植栽については、現在、海浜部分の絵だけが示されている。後背の緑地とどのように連続性を持たせるか、示して欲しい。(新城委員)</p> <p>沿岸域の植物帯の後背に、鳥類が利用できる植栽計画を検討すれば、海岸域から野鳥園への連続性が確保されるのではないか。鳥類の餌資源となる樹種の植栽についての検討が、今後なされれば良いと考える。(嵩原委員)</p>	<p>沿岸部から背後に続く野鳥園部分の植栽も含めて、この専門部会の中でイメージを提示する(資料 3、参考資料 2 参照)。詳細については基本計画の中で検討していきたい。</p>
<p>植栽の 3 年、4 年ぐらい前から、種苗の準備をしなければならぬ。(新城委員)</p>	<p>種苗については、県内業者の種苗保有状況を、適宜、把握していく。</p>
<p>●野鳥園に整備する環境等について</p> <p>沖縄市には、自然体験学習が出来る素晴らしい場所が存在している。教育委員会とタイアップし、子供達の自然体験学習の場として活用して欲しい。(中根委員)</p> <p>地域の人達が気軽に利用でき、比屋根湿地、運動公園とリンクした野鳥園として整備してほしい。(宮里委員)</p> <p>場の整備だけではなくて、人材育成も重要である。そこを管理し、情報を発信していく人材が必要である。また、公的な機関を連携させ、フィールドミュージアムという大きな構想についても検討しながら、野鳥園の活かし方をぜひ考えてもらいたい。(嵩原委員)</p> <p>昔(1980 年代)の様にカモ類が多く飛来する環境をつくって欲しい。(宮里委員)</p> <p>カモ類が当時多かったのは、避難場所となるアシ原、餌場となる水田が存在していたからだと考えられる。カモ類を誘引するには、これらの環境を創造しないとイケない。(嵩原委員)</p>	<p>沖縄市では、東部地域の小学校の子供達を中心に干潟観察会等を通じて、自然と触れ合う機会を設けている。今後は、残された自然、これから創造する自然も含めて、地域と一緒に、次代を担う子供達と共に育んでいきたい。学芸員等の人材育成については、今後、調整・検討していきたい。</p> <p>沖縄総合事務局でも、人工島を活用した環境学習を始めている。今後も引き続き環境学習を実施し、地域のニーズも考慮し、活動を行ってきたい。</p> <p>また、これまでの環境調査結果等のデータベース化、一般の方との情報共有化について、取り急ぎ検討を始めた。</p> <p>野鳥園に整備する環境については、人工島への創出の可否、野鳥の利用状況、維持管理の頻度等をもとに検討を行った。(資料 2 参照)</p>

指摘	対応
<p>今夏は、人工島内でコアジサシが多く繁殖していた。コアジサシの繁殖地の保全という視点も必要である。コアジサシと同様の環境で、シロチドリも繁殖を行う。</p> <p>G I Sを利用し、シギ・チドリ類が、周辺環境をどのように利用しているか整理し、野鳥園にシギ・チドリ類の休息場、ねぐら等の空間を整備することは考えられないか。(髙原委員)</p>	<p>野鳥園に整備する環境については、人工島への創出の可否、野鳥の利用状況、維持管理の頻度等をもとに検討を行った。(資料2参照)</p>
<p>多様性を高めるのは重要だが、狭いスペースで、どこまでカバーできるか難しい。どの程度まで多様性を高められるかは、アシ原のある湿地帯が1つのキーワードだと考える。(髙原委員)</p>	<p>人工島への淡水池[湿地]創出の可否については、簡易な検討を行った。(参考資料1参照)</p>
<p><b>●人工島のコンセプトについて</b></p> <p>人工島全体を1つの野鳥公園とは考えられないか。街路樹、入居する企業の敷地内に鳥類と関係のある樹種を植栽してもらう等の工夫が出来ないか。(新城委員)</p> <p>人工島を野鳥生息のコアゾーンとするコンセプトを親委員会に提案してはどうか。また、環境教育の場、観光の場とすることも提案してはどうか。(中根委員)</p>	<p>人工島全体の植栽の考え方等については、提言として取りまとめる。</p>
<p><b>●植栽、維持管理について</b></p> <p>連続性を持った維持管理[知識・経験豊富な業者が連続して、植栽の維持管理を行う等]を考慮しないと、立派な野鳥園はできないと考える。(新城委員)</p>	<p>ご指摘については、提言としてとりまとめる。</p>
<p><b>●その他</b></p> <p>泡瀬干潟では、あまり野鳥は注目されてこなかった。ワークショップの中で、野鳥観察会を実施する等、地元の人達へのPR活動も重要ではないか。</p> <p>福岡市では、市民の声を吸い上げ、それを野鳥園づくりに反映させている。地域と連携して、野鳥園の整備を進める必要がある。地元と協働することで、自分達がつくったという愛着が生まれる。(中根委員、髙原委員)</p>	<p>地域との連携・協働については、ワークショップの中で地域の方たちとの意見交換を始めている。その中で、地域の方がどういった野鳥に対する思いがあるのか、どういった種が好きなのか、意見を集約している(資料2参照)</p>
<p>周辺でのマリンレジャーが、野鳥の生息に影響を与えるのではないか。(中根委員)</p>	<p>利用と環境については、基本方針の中で検討した。(資料3参照) 詳細については基本計画の中で検討していきたい。</p>